



プレスリリース

平成21年7月28日
内閣府
原子力政策担当室

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」 第1回会合開催について

○内閣府(原子力委員会)は、7月30日(木)～7月31日(金)に東京、三田共用会議所(国際会議場(3階))にて「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第1回会合を開催いたします。

○FNCAとは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ: <http://www.fnca.mext.go.jp/>)。FNCAでは、近年のアジアにおける原子力発電導入の動きを受け、5年前より、地域における原子力発電の役割や原子力発電の推進に関する協力について検討するパネルを開催していますが(第1フェーズ:3年間、第2フェーズ:2年間)、今年より新たに、メンバー国の経験に基づく原子力発電向け基盤の効果的かつ効率的な整備について検討する第3フェーズ(3年間)を開催いたします。

○今次パネルにおいては、原子力発電の新規導入を希望するFNCA参加国から導入計画策定に携わる政府機関や電力事業者を招聘し、既に原子力発電を行っている日本、中国、及び韓国から、基盤整備の実経験から得られた知見を紹介して、各国及び国際協力の取組にどのように生かすかについての議論を行います。また、来年度以降の活動方針についても議論を行う予定です。

1. 主 催 内閣府 (原子力委員会)
2. 開催日時 平成21年7月30日(木)～7月31日(金)
3. 開催場所 東京(三田共用会議所 国際会議室(3階))(地図別添)
4. 参加予定国及び機関
日本、バングラデシュ、中国、フィリピン、インドネシア、韓国、マレーシア、タイ、ベトナム、IAEA(国際原子力機関)

※日本からは近藤駿介原子力委員会委員長、田中俊一委員長代理、伊藤隆彦委員(本パネル会合の議長)他の原子力委員、町末男FNCA日本コーディネーター、関係省庁等が出席する予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は7月30日(木)の開会セッション(9:30~9:50)のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、傍聴席確保の必要上、開催前(7月29日(水))までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。

なお、傍聴は1社につき原則1名(撮影のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

〔傍聴希望の受付:三田共用会議所 国際会議室(3階)前〕

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
牧、山本、秋山

電話: 03-3581-6690(直通)

03-5253-2111(内線44647)

FAX: 03-3581-9828

(別添1)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第1回会合プログラム案

平成21年7月30日(木)

プレスオープンは7月30日の
開会セッションのみ

● **開会セッション(9:30~9:50)**

- 1. 開会挨拶 (伊藤 隆彦 パネル議長(原子力委員会委員))
- 2. 歓迎挨拶 (近藤 駿介 原子力委員会委員長)
- 3. 各国参加者紹介

セッション1: 基調講演

セッション2~4: 日本、中国、韓国における原子力発電導入時における基盤整備の経験

セッション5: 新規導入国の現状と導入に向けたロードマップ

セッション6: 円卓討議

平成21年7月31日(金)

セッション7: クリーン開発メカニズム(CDM)スタディの進捗報告

セッション8: 原子力発電向け人材育成データベース状況報告

セッション9: FNCAプロジェクト対応方針フォロー

セッション10: 今回パネルの総括と大臣級会合向け報告
及び2010年/2011年の基盤整備パネルの活動方針

閉会セッション

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

第1回会合

海外参加者一覧

①オーストラリア

今回出席者なし

②バングラデシュ

1) Dr. Mantazul Islam CHOWDHURY(マンタザル・イスラム・チョウドハリー)

バングラデシュ原子力委員会(BAEC)

放射線試験・監視研究所(RTML)

主任科学官・所長

2) Mr. Ahsanul HAQUE(アーサナル・ハケ)

科学情報通信技術省(MOSICT)

上級次官補

③中 国

1) Dr. Wu Chunxi(ウー・チュンシ)

中国核科学技術情報・経済研究院副院長

④フィリピン

1) Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・モリナ・デラロサ)

フィリピン原子力研究所所長

2) Mr. Froilan A. TAMPINCO(フロイラン・A・タンピンコ)

フィリピン国営電力公社社長

⑤インドネシア

1) Dr. Taswanda TARYO(タスワンダ・タリヨ)

インドネシア原子力庁(BATAN)次官(研究開発研究利用及び科学技術社会化担当)

2) Dr. Achmad Sarwiyana SASTRATENAYA

(アチマッド・サルウィヤナ・サストラテナヤ)

インドネシア原子力庁(BATAN)原子力エネルギー開発センター センター長

⑥韓 国

1) Mr. CHAE Song Suk(チェ・ソンスク)

韓国原子力国際協力財団(KONICOF)メンバー

⑦マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor Muhd. YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁(MINT)副長官(技術サービス)
- 2) Dr. Mohd Zamzam bin JAAFAR(モハメド・ザムザム・ビン・ジャアファー)
テナガナショナル(TNB)原子力部部長

⑧タイ

- 1) Dr. Somporn CHONGKUM(ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所(TINT)所長
- 2) Mr. Ratanachai NAMWONG(ラタナチャイ・ナムウオン)
タイ電力公社(EGAT)原子力工学部部長

⑨ベトナム

- 1) Mr. Cao Dinh Thanh(カオ・ディン・タン)
ベトナム原子力委員会(VAEC)企画・研究開発管理部副部長
- 2) Mr. PHAN Minh Tuan(ファン・ミン・トゥアン)
ベトナム電力公社(EVN)原子力・再生可能エネルギー計画・投資委員会委員長

⑩IAEA(国際原子力機関)

- 1) Mr. Pal Vincze(パル・ビンチェ)
国際原子力機関(IAEA)原子力工学課課長補佐

(別添 3)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、フィリピン、インドネシア、韓国、マレーシア、タイ、ベトナムの10カ国(この他に IAEA がオブザーバー参加)

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

＜原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)＞

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は1990年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。1999年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできる FNCA 新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年 1 回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成 12 年 11 月(タイ)大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
 - 第2回大臣級会合：平成 13 年 11 月(東京)尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
 - 第3回大臣級会合：平成 14 年 10 月(韓国)細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
 - 第4回大臣級会合：平成 15 年 12 月(沖縄)茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
 - 第5回大臣級会合：平成 16 年 12 月(ベトナム)棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
 - 第6回大臣級会合：平成 17 年 12 月(東京)松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
 - 第7回大臣級会合：平成 18 年 11 月(マレーシア)平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
 - 第8回大臣級会合：平成 19 年 12 月(東京)岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みと FNCA 活動」
「放射線利用を中心とした FNCA 活動」
 - 第9回大臣級会合：平成 20 年 11 月(フィリピン)増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
 - 第 10 回大臣級会合：平成 21 年 11 月末予定(東京)
テーマ：未定 野田科学技術政策担当大臣出席予定
- ※第 11 回は中国がホスト、第 12 回は日本がホスト、第 13 回はインドネシアがホスト予定

②「検討パネル」

平成 16 年から平成 18 年の 3 カ年「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。その結果を受け、第2フェーズとして平成 19 年から平成 20 年の 2 カ年「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1)原子力発電分野における人材養成、2)原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成 20 年 11 月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成 21 年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第1回 パネル会合 2004年10月 東京
- 第2回 パネル会合 2006年1月 東京
- 第3回 パネル会合 2006年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 2007年10月 東京

テーマ:原子力発電分野における人材養成

議長:杉本 純

(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長

→ フォローアップとして、「原子力発電のための人材養成データベース」をJAEAの委託で実施。2009年4月から運用開始。

- 第2回 パネル会合 2008年9月 東京

テーマ:原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について

議長:早田 邦久

原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 2009年7月30日、31日 東京(開催予定)

議長:伊藤 隆彦

原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問

- 第2回 パネル会合 2010年 韓国(開催予定)

- 第3回 パネル会合 2011年 インドネシア(開催予定)

※2009年3月の第10回FNCAコーディネータ会合で第3フェーズのTORについて議論。

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3ヵ年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとした。将来の会合開催地となることについて、中国及びタイから希望が示された。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男文部科学省参与。

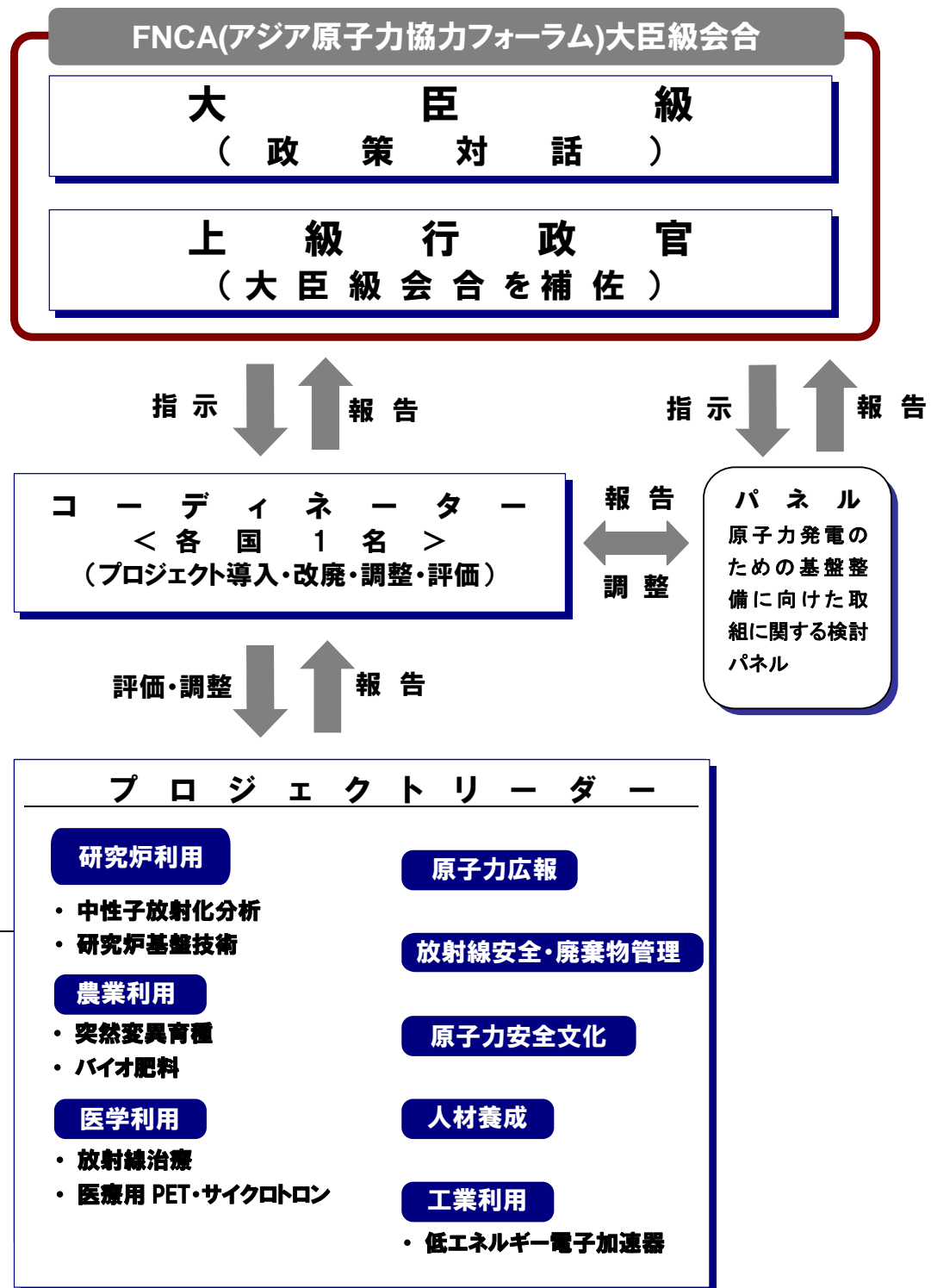
(開催実績)

- 第1回 コーディネーター会合 2000年3月 東京
- 第2回 コーディネーター会合 2001年3月 東京
- 第3回 コーディネーター会合 2002年3月 東京
- 第4回 コーディネーター会合 2003年3月 沖縄
- 第5回 コーディネーター会合 2004年3月 東京
- 第6回 コーディネーター会合 2005年3月 東京
- 第7回 コーディネーター会合 2006年3月 東京
- 第8回 コーディネーター会合 2007年2月 東京
- 第9回 コーディネーター会合 2008年3月 東京
- 第10回 コーディネーター会合 2009年3月 東京
- 第11回 コーディネーター会合 2010年1月～2月 東京(開催予定)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射線安全・廃棄物管理、原子力安全文化、人材養成、工業利用の8つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



(別添 4)

会場地図

場所:三田共用会議所 国際会議室(3階)

【交通手段】:(地下鉄)

東京メトロ 南北線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩5分

都営地下鉄 大江戸線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩9分

